

■第6回検討委員会（書面開催）委員意見一覧

【議事1】市議会特別委員会および現庁舎跡地(周辺)利活用検討・まちなか再生・賑わい波及検討分科会での審議状況について

委員名	意見
岸井委員長	意見なし
国吉委員	●これまでの分科会での検討、およびまちづくりラボでの意見交換は充実したものとして評価します。新たな熊本地震によって、新庁舎整備や現庁舎跡地の活用検討にも、整備内容やスケジュールの調整などの対応が求められることが予想されますが、これまでの検討内容を重視してこれからも進めていただきたい。
菅野委員	意見なし
田中委員	●まちづくりラボでの意見・アイデアの対応について（資料3）に関して、「考慮する意見・アイデア」とそれに応じた「今後の対応（案）」が列記されているが、それぞれの意見やアイデアを断片的に扱うのではなく、まちづくりプランの方針や方向性を照合しながら体系的に整理し、うまく活用できるアイデアはプランや施策に反映するなど、実装・実現できるように検討してほしい。 例えば回遊性向上に関して「魅力的なオープンスペースの創出」、「歩行者空間の快適性の向上」、「駕町～銀座通りの動線を重視する」等は体系的に捉えプランに反映することができる。またハードだけでなくソフトに関しても跡地に相応しい用途の導入や、まちづくり勉強会や活動の実施、投資促進のための協議会設立なども関連するだろう。
藤本委員	意見なし
星野委員	●回遊性の向上においては、回遊軸に面した敷地における空地の作り方、植栽、しつらえ、あるいは低層部の作り方等が重要になってくる。 ●現在、まちP案件は景観調整会議に付議されるが、設計が固まった段階で付議されるため、外壁や植栽などの表層的議論にとどまっている。まちづくりプランの理念を担保するためには、プランの構想段階から付議していただき、せめて2往復程度のやりとりができるスキームとなることが好ましい。 ●また、まちづくりプランの理念が担保されるよう、まちPの補助要綱等にも、市として求める要件については、明示した方がよい。 ●令和8年熊本地震では、中心市街地の建物に外観上大きな被害は見られていないが、古い建物も多く、今後、さらに大きな地震がくれば、甚大な被害が起きることも想定される。 ●現在議論されているリノベーション支援は、魅力向上だけではなく、耐震などの防災的に価値があるものであるため、より積極的な検討を求める。 ●まちづくりプランの検討を進めるにあたり、建物の被害状況や経済被害などを調査し支援策の検討につなげるとともに、災害時にオープンスペースや災害協定などがどのように機能したかなども検証してはどうか。

吉城委員	●あくまで参考事例であるが、先々月に訪問したカナダのカルガリーのトラムでは、ダウンタウンエリア内の乗降は無料であり、中心部の回遊性向上に寄与しているものと想定している。資料 2 や資料 3 で言及されている点であるが、地上レベルの回遊性を向上させていく方針に賛同する。そしてそのために例えば熊本においても路面電車等を中心部の回遊を支えるインフラとして位置づけ、運賃のあり方や他の交通手段との連携なども含め、中心部内の移動のハードルを下げる取組を検討していくことなども重要と考えられる。あるいは前回にも言及させていただいたが、連続的に日射を避けられるような空間を創出していく上では民間の協力も必須となる。 いずれにせよ、回遊性向上のためには手段の検討も必要であり、まちづくりプラン（仮称）の段階において何をどの程度の表現で書き込むべきか、書き込まなければならないかについても引き続き検討をお願いしたい。
猪毛尾委員	●「一日を通してまちで過ごせる場づくり」の為に、安心・安全な街であることが大事です。昨今の、集中豪雨が日本各地で起こっていますが、また、熊本市でも内水氾濫が起らない保証はありません。今年は千葉県で内水氾濫が起りましたが、千葉の様に、地下貯留施設を毎年造り増やしていくことが必要ではないでしょうか。
高田委員	●まちづくりラボでの意見を拝読すると、熊本に住む方々の思いが「夢」として表現されており、改めて住んでいることの重要性を認識した。一方、この庁舎周辺まちづくりプランでは、交流人口を増やす都市活動の活性化を育む方向性が主になっており、住み続ける定住機能についての考察が希薄である。住む、または住みつつ高次の都市活動を担える場としてこのエリアを考察することも必要ではないか。
野田委員	意見なし
原山委員	（資料 2）庁舎周辺まちづくりプランの進め方について ●新庁舎整備事業検証委員会では、現庁舎の利用継続も含めて 5 パターンの検討が行われていると聞いている。一方で、現在検討中のまちづくりプランは、現庁舎の桜町等への移転を前提としているため、手戻りが生じないよう両者の整合性をしっかり図りながら議論を進めていただきたい。 （資料 2）各ゾーンの目指すべき姿 等について＜回遊性向上に関すること＞ ●「地上レベルでの回遊性向上を図ることが望ましい」とあるが、令和 7 年 4 月開催「第 12 回くもと都市戦略会議」において、経済界より防災機能（シェルター）強化の観点から、地下道（街）の整備を提案しており、更なる具体的検討をお願いしたい。
長畑委員	意見なし
笹原委員	意見なし
上野委員	意見なし
早野委員	意見なし
黒木委員	意見なし

■第6回検討委員会（書面開催）委員意見一覧

【議事1】市議会特別委員会および現庁舎跡地(周辺)利活用検討・まちなか再生・賑わい波及検討分科会での審議状況について

※追加意見

委員名	意見
岸井委員長	●今回の地震被災から学ぶべきものがあると思う。「今回の地震から明らかとなった現市庁舎の課題、中心市街地の課題」を整理した上で今後の検討に反映されたい。
国吉委員	意見なし
菅野委員	意見なし
田中委員	意見なし
藤本委員	意見なし
星野委員	意見なし
古城委員	意見なし
猪毛尾委員	意見なし
高田委員	意見なし
野田委員	意見なし
原山委員	意見なし
長畑委員	意見なし
笹原委員	意見なし
上野委員	意見なし
早野委員	意見なし
黒木委員	意見なし

■第6回検討委員会（書面開催）委員意見一覧

【議事2】新庁舎整備基本計画検討分科会での審議状況について

委員名	意見
岸井委員長	意見なし
国吉委員	意見なし
菅野委員	意見なし
田中委員	●新庁舎整備基本計画検討分科会にて面積等の精査を行っているが、議会機能については「議会と今後調整を行う」とのことで、現段階では検討の俎上に置かれていない。委員からは市民開放や委員会室等の利用可能性などの意見が出ているように、議会機能の市民利用が期待されている。基本計画見直しの段階での連携が必要と考えることから、ぜひ具体的な進め方とスケジュールを検討してもらいたい。
藤本委員	●資料4_第8回新庁舎整備基本計画検討分科会での意見および資料／資料1 各機能の必要性と面積精査 p.4／2 . 各機能の必要性の再確認／交流・共創機能／整備方針：「○本庁舎は、「憩いと賑わいにつつまれ、新しい“何か”が生まれる空間」を目指します。」について、「“何か”」は漠然としていて、他の機能と比較して機能の必要性が伝わりづらいと思う。例えば、資料5_第9回新庁舎整備基本計画検討分科会（書面開催）での意見および資料／参考資料3 交流・共創機能の縮減案 p.5に示す具体的な内容「（2）想定される交流・共創機能の利用シーン」を参照できるように、関連ページの記載を注で記すなどが必要ではないか。 ●資料4_第8回新庁舎整備基本計画検討分科会での意見および資料／参考資料4_交流・共創機能、半屋外スペースの面積精査について p.2,3／（1）面積精査における視点／種別について、この資料以前に「交流・共創機能」の具体的な内容が示されていないように思うが、ここでは「④会議スペース」「⑦利便施設（カフェ・コンビニ等）」も「交流・共創機能」に含まれると記載されており、さらには周辺施設での保管が可能とのことと示されると、庁舎で担うべき交流、共創とは何かかわからない。 ●資料5_第9回新庁舎整備基本計画検討分科会（書面開催）での意見および資料／資料1 面積縮減案 p.3.4／縮減案（第9回分科会時点）／交流・共創機能は占有スペースを設けず共用部や周辺施設を活用〔B、C〕▲4,500㎡について、精査後に0平米となっているが、全てを他の機能との重ね合わせや周辺施設での補完とするのは強引であると思う。特に「キッズスペース」については授乳室の確保なども必要である。また災害時においても確保しておくことが望まれる機能であると考えられることから、占有スペースとしての面積を確保していただきたい。
星野委員	意見なし
吉城委員	意見なし
猪毛尾委員	●概算事業費が1,230億円と算出されていたが、令和8年熊本地震が7月28日に発生したため、さらに建築資材や人件費が高騰している。完成までには、さらに費用がかかると市民は心配をしている。状況を把握し、対応が必要ではないでしょうか。
高田委員	●熊本の中心街は公共施設の更新が、その景観や都市機能に多大な影響を与えてきた。今回も政令市熊本の都市ブランドを象徴し、牽引する機能を発現できる計画にしていきたい。併せてウォークアブルシティを実感できるまちづくりに資するものであってほしい。
野田委員	意見なし

原山委員	●（資料４） Ｐ５～Ｐ８ 資料２：フロアレイアウト案 ２．中央区役所平面図 高階層による熊本城の眺望の妨げを懸念。まちなか再生・賑わい波及の観点から位置づけや効果、また、景観確保の観点から低層化を含めた再検討をいただきたい。 ●（資料５） Ｐ１～１０ 参考資料１：執務機能の縮減案 デジタル化の進展による将来的な行政機能に必要なスペースの縮減を考慮し、外部（民間等）への賃貸にも対応できるなどフレキシブルな設計が必要と考える。
長畑委員	意見なし
笹原委員	● １ 駐車場について 庁舎及び中央区役所の駐車場を整備するにあたり、駐車場が満車状態となり、駐車場への入庫待ちによる交通渋滞の悪化や交通渋滞に起因する交通事故を懸念します。 民間の駐車場は周辺にもありますが、要件を短時間で済ませたいという方は、一番近い場所を選ぶと予想します。 今後、詳細な駐車場への入庫と出庫のコース設計・駐車場配置を行うと考えます。 施設の管理面からゲート式駐車場を採用される場合、入庫ゲートを道路側よりも敷地内にある程度入った位置に設置するように検討してください。 理由は、入庫ゲートを道路側直前に設置した場合、入庫する車はその都度、道路上に停止することになり、後続車が常に路上滞留することになり、新たな交通渋滞が発生することになるからです。 交通渋滞対策のため、敷地内に数台分の滞留可能なスペース確保を検討してください。 逆に、出庫ゲートは道路側に近い方へ設置することにより、交通事故発生防止の観点から速度抑制につながると考えます。 現在、駐車場管理設備は技術革新が進展し、従来の駐車券発行型から車のナンバー読み取り型へと進化しています。 施設の維持管理費用に限りはあると思いますが、交通渋滞及び交通事故防止の観点からより効果的なシステム導入が可能であれば、導入の検討をお願いします。 ● ２ 公共交通の更なる利便促進について 計画では、新庁舎はバスターミナルに隣接します。 来庁者必要台数を算出し、駐車場の整備台数はインパクトのある台数となっています。 今後の整備に際しては、市民へバスや電車等の公共交通利用の促進をより一層周知していただくようにお願いします。 ● ３ 災害時の災害対策本部機能スペースについて 令和８年７月２８日に熊本地震が発生し、熊本県が県内の地震対応について、各自治体や関係省庁との連絡調整等を行っている状況です。 災害時における災害本部機能スペースの規模に関して、熊本県防災センター等で災害対応を行っていると思いますので、災害対策に要した執務室（オペレーションルーム、リエゾン室等）の見学や熊本県担当部署への聞き取りにより、参考値としてご検討いただけると幸いです。 熊本市は１０年前の平成２８年熊本地震での災害対応経験を有していることは承知済みです。 災害は発生規模や状況が異なるため、一律ではありませんが、令和８年熊本地震対応状況が、新庁舎における災害規模に応じて拡充対応できる必要な面積確保の参考値になると考えます。
上野委員	意見なし
早野委員	意見なし
黒木委員	意見なし

■第6回検討委員会（書面開催）委員意見一覧

【議事2】新庁舎整備基本計画検討分科会での審議状況について

※追加意見

委員名	意見
岸井委員長	●議会棟も検討対象であるので、議会担当者のご意見を早めに頂き検討部会で内容を精査した上で、本庁舎の計画と一体のものとして本会議に諮りたい。会議室や市民との交流空間などの共用も検討する価値があると思う。
国吉委員	意見なし
菅野委員	意見なし
田中委員	●交流・共創スペース／藤本委員からのご意見について 交流共創機能については分科会でも議論しており、必要な機能や面積はきちんと確保することを考えている。今回は書面開催による意見聴取であったため、次回以降、面積精査を取りまとめる中で、的確かつ伝わりやすい表現を引き続き検討したい。 ●新庁舎の面積精査について／原山委員からのご意見について 本庁舎および中央区役所整備にあたっては、景観計画に則り、熊本城への眺望及び熊本城天守閣からの眺望を保全し、良好な景観形成に寄与することが重要と考えている。その考えのもと、景観に配慮した上での規模や高さなどについて、基本計画にて取りまとめていきたい。
藤本委員	意見なし
星野委員	意見なし
古城委員	意見なし
猪毛尾委員	意見なし
高田委員	意見なし
野田委員	意見なし
原山委員	意見なし
長畑委員	意見なし
笹原委員	意見なし
上野委員	意見なし
早野委員	意見なし
黒木委員	意見なし